

New

Nogata

2025、12、24

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス共育コラム⑨

“節目”のつけ方の大切さ



A君、ひと足早く「卒部」

昨年度途中から、いったん活動を離れ、手術に向けて準備をし、今年の春先に手術をし、退院後、術後の経過を診ていました。が、2回目の手術が必要になり、今年の夏に行い、退院後、また、術後の経過を診ていました。当初は毎日、そして今は週1回通院し、経過観察を行っているとのこと。この間、ずっと復帰の時期を探っていましたが、まだしばらくの間（数か月もしくは年単位）、継続観察が必要で、その間、コンタクト（身体接触）のあるスポーツは止められているようで、年度内の復帰は無理ということが明らかになりました。そこで、年末を節目として、ひと足先に部を離れることになりました。12月22日（月）に、お母さんといっしょにあいさつに来てくれました。本人の元気そうな笑顔にほっとするとともに、できることならバスケットを続けたいという思いに触れ、複雑な心境でした。しかし、何年先になるか分かりませんが、いずれまたできる時期がくるであろうことを聞いて、そうなることを願いながらお別れをしました。

昨年度途中までいっしょに活動していた子どもたちを集めて、状況の説明をした後、それぞれ言葉を交わして、いったんお別れしました。来春から地元の中学校に進学するので、そこではまたいっしょに学校生活をおくることとなりますから…。

中学校進学を前にした6年生のこの時期、本人にバスケットを続けたい意志がありながら…ということで、退部ではなく、ひと足早い「卒部」ということで受けとめています。

子どもの成長過程における、こうした節目（区切りではなく）のつけ方はとても大切で、ここをきちんとつけていくことで、そこからまた次の歩み（成長）につながっていきます。それは、自分がやってきたことに意味を感じ、自尊感情を

下げることなく、次の一步を踏み出すことができるからです。「出会い」「つながり」を大切にするとすることは、こういうことだと思っています。「つながり」が切れていなければ、何か必要があれば、またもどってくることもできます。時折、OBがもどって来て、後輩たちの相手をしてはいますが、それもその一つの光景でしょう。子どもたちが、互いに元気を分け合っている機会だと思っています。その姿に私も元気をもらっています。

世の中には、ほんとうにさまざまな子どもたちがいます。私自身、教職生活37年間、その後現在までさらに8年間、計45年間、いろんな子と出会ってきました（それでもまだほんの一部だと思っています）。なかでも特に心身の健康状態とたたかっている子については、本人や親の思い、願いだけでは、どうしてもクリアできないことがあり、医療機関、教育機関の継続的なサポートを受けながら、クリアしていかなければなりません。それは、短期間では難しく、中長期にわたることもあります。そのような中であって、本人の意志と、それを尊重したいという親の思いはとても重要で、それによって、強くたくましく、そして豊かに生きている、生き抜いている姿をたくさん見てきました。そんな親子にたくさん出会ってきました。その出会いのなかで、「生きること」「生きているということ」を、私が学ばせてもらっています。

今、活動できている子どもたちにも、だからこそ、今を、一日一日を大切にしてほしい、そこでの「出会いとつながり」を大切にしてほしい、ことを伝えました。

ささやかなお別れの場面でしたが、子どもたちどうしの再会や、いずれまたおもいっきり身体を動かして活動する姿が見れる日が来ることを願いながら、ひと足早い、卒部に拍手を贈ります。